

「朋ともに生きる」

作家の司馬遼太郎さんの『21世紀に生きる君たちへ』という短い文章があります。紹介させていただきますと、「人間は助け合って生きているのである。私は、人という文字を見るときしばしば感動する。斜めの画が互いに支えあって構成されてある。」「人という文字は二つとも斜めの画が互いに支えあってできている。」「そのことでもわかるように人間は社会を作って生きている。社会とは支えあう仕組みということである。」

「原始時代の社会は小さかった。家族を中心とした社会だった。それが次第に大きな社会になり、今は、国家社会を作り、互いに助け合いながら生きているのである。自然物としての人間は、決して孤立して生きられるように作られていない。」

私たち一人ひとりが、助け合い、そして支えあい、今、朋ともに生かされている尊さを私に教えていただきました。

暮には、私が住職をしているお寺で報恩講ほうおんこう（宗祖親鸞聖人しゅうそしんらんしょうにんのご法事）が勤まります。あるご夫婦は、昨年しんねんの報恩講が終わるやいなや、翌年ごとしの報恩講のお齋（昼食）の食材作りの段取り、そして、別の方は、報恩講の時期にお花が咲き見ごろになるよう育てていてくださいます。お華立てを担当してくださる方、お齋を担当してくださる方、それぞれの場でたくさんの方の手が掛けられ勤まることに私自身が気付かされました。たくさんの方と朋に、譲り合い助けられながら、今年も報恩講がお勤めされます。

親鸞聖人が明らかにしてくださった御恩報謝の念仏を糧に、朋に翌年の報恩講に向けて1年間を歩みたいと思っております。